

# 都市教養学部 教員一覧

## 教員の専門分野・研究分野の紹介

理工学系
<b>電気電子工学コース</b> →p.064
奥村 次徳 教授 半導体工学。化合物半導体の不純物ドーピングや格子欠陥
清水 敏久 教授 半導体電力変換工学、半導体電力回路のモデリング・制御
須原 理彦 教授 量子電子工学・半導体デバイス工学
岡本 仁 教授 電子通信工学。圧電弾性波を利用した小型機能デバイス
多氣 昌生 教授 環境電磁工学、生体電磁環境、騒音制御工学
初久保 文嘉 教授 放電物理、気体放電プラズマとプラズマ化学反応の基礎・応用
安田 恵一郎 教授 システム工学。最適化手法と電力システムへの応用
渡部 泰明 教授 電子工学、計測工学、原子発振器等精密周波数発生源の設計・応用
内田 諭 准教授 放電物理、プラズマ応用、静電気学
五箇 繁善 准教授 電子デバイス、電子機器
鈴木 敬久 准教授 生体電磁気学、プラズマ理工学、数値シミュレーション
相馬 隆郎 准教授 ロボット工学、精度保証付き数値計算法
中村 成志 准教授 半導体工学、結晶工学、電子デバイス
三浦 大介 准教授 超伝導材料の高性能化と超伝導応用
和田 圭二 准教授 パワーエレクトロニクス、特に分散型電源や電力系統応用
上條 敏生 助教 光・マイクロ波工学、通信・ネットワーク工学、電子・電気材料工学
斉藤 光史 助教 化合物半導体結晶成長・表面物性
佐藤 隆幸 助教 超音波生体画像、生体医工学
白井 直機 助教 放電プラズマ、マイクロプラズマ
田村 健一 助教 システム制御理論
土屋 淳一 助教 電気機器、電気エネルギー工学、パワーエレクトロニクス
水口 佳一 助教 超伝導工学、磁気工学

<b>機械工学コース</b> →p.066
浅古 豊 教授 伝熱工学、マイクロスケールの流れと熱移動、磁化力の工学応用
首藤 登志夫 教授 エネルギー工学、水素エネルギー、代替燃料、燃料電池、エンジン
真鍋 健一 教授 固体力学、塑性工学、材料変形解析、複合材料、マイクロ塑性加工
水沼 博 教授 流体工学、抵抗低減、液相マイクロプロセス、生体流動
吉業 正行 教授 環境機能材料学、先進高温材料システム保証学
吉村 卓也 教授 振動工学、機械力学、振動騒音の現象解析、最適構造設計
若山 修一 教授 人工関節の長期信頼性、バイオセラミックス、疲労骨折の早期診断
小方 聡 准教授 流体工学、マイクロ・ナノ領域流れ、抵抗減少効果
小口 俊樹 准教授 制御工学、非線形むだ時間システムの制御、複雑系の同期と制御

寛 幸次 准教授 航空宇宙材料の機械的特性評価及び加工プロセスに関する研究
小林 調史 准教授 高機能繊維強化プラスチック、医療用複合材料、損傷・破壊解析
高橋 智 准教授 表面・界面工学、耐熱コーティング、超音波接合
長谷 和徳 准教授 福祉工学、人間支援機械工学、リハビリテーション工学
本田 智 准教授 MEMS (マイクロマシン)、設計工学、メカトロニクス
小原 弘道 助教 流体工学 (工学)、マイクロナノデバイス (複合新領域)
金子 達司 助教 熱工学、流体工学
坂井 建宣 助教 材料力学
竹原 昭一郎 助教 人間機械システム工学
玉置 元 助教 機械力学、ヒューマン・ダイナミクス
古島 剛 助教 金属MEMS、メゾスコピック塑性論
村上 和彦 助教 機械工学、熱工学、冷凍工学、エネルギー変換工学
吉田 真 助教 プロセス工学、生物機能・バイオプロセス

<b>都市政策コース</b> →p.068
奥 真美 教授 行政法、環境法
白石 賢 教授 法と経済学、経済刑法
和田 清美 教授 都市社会学、コミュニティ・市民参加論
朝日 ちさと 准教授 政策評価研究、費用便益分析
金子 憲 准教授 財政学、公共経済学
松井 望 准教授 行政学、都市行政論
伊藤 智基 助教 行政法
大槻 茂実 助教 社会学・社会調査

# 都市環境学部

Faculty of Urban Environmental Sciences

## 都市環境学科

<http://www.ues.tmu.ac.jp/index.html>

080 地理環境コース

082 都市基盤環境コース

084 建築都市コース

086 分子応用化学コース

088 自然・文化ツーリズムコース\*

\*他の4コース在籍学生の中で希望者が、3年次進級時に選択



大都市の環境問題は今や地球全体に関わる問題。  
その解決のために学際的・総合的な視野を養う。

都市環境学部には5つのコースが設置され、学生はまず地理、土木、建築都市、応用化学、観光という基礎となる学問分野のいずれかを専門的に学びます（ヒートアイランド、地震防災、交通渋滞、省エネ建築、太陽光エネルギー利用など）。その上で、身につけた知識・技能を基盤として大都市が抱える環境問題を学際的な視点から解決できる人材を育成することが本学部の目指すところです。「大都市」を構成する要素として「自然環境」「人間」「物質」「エネルギー」「情報」「構造物・人工物」という6つが挙げられますが、その6つで地球に存在するほとんどが網羅されています。また、現在、世界全体の人口の半分以上が都市地域に住んでおり、都市と農村は密接に結びついています。これらのことから考えると、今や大都市の環境問題は世界全体、地球全体の問題であると言えます。そのため、大都市の環境問題解決には総合的・学際的に物事を見つめ、判断する能力が求められるのです。そのような能力を養うにはどうしたらよいか。本学部では、コース横断的科目の設置や副専攻の導入などによって、学際的でトータルな視点を養う学びを積極的に推進しています。また、さまざまな現場体験による臨場感や、豊富な実験による発見も本学部で学ぶ醍醐味だと言えます。このような学習環境のもとで、学生の皆さんには主体的に物事を考え、素直に感動することを忘れず、大都市の環境問題解決という21世紀の大きなテーマに果敢に挑戦してくれることを願っています。

都市環境学部長 杉浦 芳夫

## 都市環境学科

地理環境コース

都市基盤環境コース

建築都市コース

分子応用化学コース

自然・文化ツーリズムコース※

※他の4コース在籍学生の中で希望者が、3年次進級時に選択

## 学部の特徴とポイント

都市環境学部では、都市における重要な要素を「自然環境」「人間」「物質」「エネルギー」「情報」「構造物・人工物」の6つに分類。

地理環境コースでは「人間」と「自然環境」、都市基盤環境コースでは「自然環境」と「人工物」、建築都市コースでは「人間」「情報」「構造物・人工物」、分子応用化学コースでは「物質」と「エネルギー」、自然・文化ツーリズムコースでは「自然環境」「人間」「情報」を主要なテーマとして、環境問題との関連性やその課題などを掘り下げながら、専門的な研究を行います。

特に3年次までは各専門分野の基礎的な学問知識をしっかりと修める課題解決型の学習を重視し、その後4年次では卒業研究を通し、何が問題かを発見し、それを解決に導く方法論が展開できる、課題発見型の学習を実践します。

都市における環境問題では、総合的なアプローチが不可欠なため、コースの枠にとらわれない横断的な教育や、他学部の授業科目履修の奨励などを行い、複合的な視点を身につけられる勉学環境を整えています。

## 人材育成の狙い

また、「より豊かな社会を作ろう」という強い目的意識をもって、さまざまな都市環境の問題を発見・解決する能力をもち、さらにリーダーとして活躍できるような人材の育成が目標です。

そのためには受け身の学習ではなく、積極的に知の探究活動に没頭できる、学びへの興味や熱意が必要となります。都市環境学部には、それぞれ個性的な分野で活躍する研究者たちが、次代を担う若者たちとともに、理想の未来への夢を追いかけています。こうした環境の中で、研究活動にともに参加し、没頭することで、学生たちは自分の力に目覚め、さらに伸びていくのです。

学生は未知の力を秘めた種。この素晴らしい土壌と水に恵まれた首都大学東京という地が、豊かな可能性を引き出すホームグラウンドといえましょう。

# 地理環境コース

http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/



## グローバル＆ローカルな目で地球、人、環境の相互関係を理解する

地形や気候、植生などから地球の環境を分析したり、地域の文化や社会・経済の特徴を研究したり、地理環境科学について幅広く学べたりするのがこのコースの特色です。

1年次で、自然地理学や人文地理学など、地理学の幅広い分野の基礎をかためます。2年次では、演習や実習で環境を分析するスキルを磨きます。3年次以降、実際に全国各地の様々な現場に足を運び、「地形・地質学」「環境変遷学」「気候学」「地理情報学」「環境地理学」「都

市・人文地理学」の6つの研究室でより深く自分の研究テーマを掘り下げていきます。

地理環境コースは、地球や地域の歴史と未来を自分の肌で感じられるとても楽しいコースです。また、近年そのニーズが高まっている地理情報システム（GIS）の活用にも積極的で、地理空間情報を分析するためのスキル向上には特に力を入れているなど、いろいろなタイプの地理学を基礎からしっかり学べる日本で唯一のコースです。

## カリキュラムの特色

地理環境コースのカリキュラムは、入門講義に始まり、専門講義、演習、実習、セミナー、野外調査などの実践科目を積み上げ方式で学んでいきます。

1年次には地理学の入門講義と、各専門分野の教員がひとりずつ講義を行い、地理環境科学のさまざまな研究分野を知ることが出来る「地理環境科学序説」があります。2年次では地理学の3大分野である自然地理学、人文地理学、地理情報学に関する基礎講義に、調査・観測・分析技術を学ぶ演習・実習が行われます。さらに3年次からは、学生

の興味ある分野をそれぞれ選択し、これまで修得したスキルを野外で実践する長期野外調査や、国内外の文献を読み、討論するセミナーなどがあります。4年次になると研究室に所属し、卒業論文に取り組みます。

また、本コースはJABEE（日本技術者教育認定機構）の教育プログラムとしての認定を受け、卒業時には全員が修習技術者または技術士補の資格を取得できます。

## 求められる学生像

地形、気候、都市、地球環境に興味をもっている人。地球の未来を自分で感じて、都市の環境や地球の環境を良くしたいと、しっかりとした考えをもてる人にとって、とても面白い学問です。

また、地理にはさまざまな研究分野があるので、現地に行って自然

環境や人々の暮らしを考えたいという行動派の人ばかりでなく、コンピュータが好きな人は、デジタル情報を駆使して環境問題を研究するなど、多様な方向性があります。

## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年	
都市教養科目群	基礎セミナー、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)				
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目				
専門教育科目群	必修科目	地球環境科学概説I・II 地理学概説I・II 地理環境科学序説、地球科学実験	地形学、地理情報科学 気候学、都市地理学 地理環境科学基礎演習I・II 測量実習	地理環境科学研究法I・II 地理環境科学基礎課題研究	地理環境科学特別課題研究I・II 地理環境科学特別研究
	選択必修科目		地理環境科学実習I～III 地理情報システム実習から 2科目選択 地域・環境地理学分野群から 2科目選択	地理環境科学調査法I～VIから 1科目選択 地理環境科学第一・第二基礎セミナーI～VIのうち、同じ研究室が開講するものを前・後期に一つずつ選択 自然地理学分野群から2科目選択 人文地理学分野群から2科目選択 地理情報学分野群から2科目選択 環境アセスメント論、災害論、 地理環境科学野外体験実習から 2科目選択	地理環境科学第一・第二専門セミナーI～VIのうち、同じ研究室が開講するものを前・後期に一つずつ選択
	自由科目			地理環境科学特別講義V・VIなど	

## 取得できる資格・免許

学士（理学）：卒業を要件として取得できます。

中学校教諭一種免許状（社会・理科）：それぞれの免許に定められた、教職に関する科目と教科に関する科目の単位（講義・演習・実習）の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

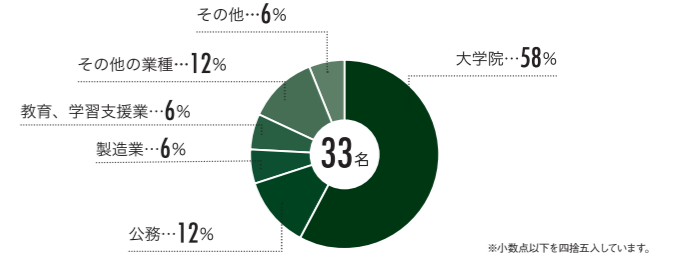
高等学校教諭一種免許状（地理歴史・理科）：それぞれの免許に定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位（講義・演習・実習）の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

学芸員：定められた科目の単位の修得ならびに、卒業を要件として、学芸員資格が取得できます。

測量士補：登録申請書に、卒業証明書、単位履修証明書と手数料をそえ、国土院に申請することで、測量士補の資格を取得できます。

GIS学術士：定められた科目の単位を優秀な成績で修得し、GISを利用した卒業論文を執筆することで取得できます。

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

【就職先】 ザイマックスビルマネジメント、サムシングホールディングス、社会システム、信金中央金庫、鉄道情報システム、JR東海、JR東日本、JR貨物、東京急行電鉄、日本コムシス、日本通運、日本生活協同組合連合会、農中情報システム、フジタ、富士通エフ・アイ・ピー、三井不動産住宅リース、ディスコ、山梨放送、教員（東京都）、国土交通省、渋谷区役所、多摩市役所、横浜市役所 など

【進学先】 首都大学東京大学院、東京大学大学院、名古屋大学大学院 など

## 在校生インタビュー

自然保護の夢に向かって調査法を深く学び、調査結果を活用する力も養っていきたいです。

環境問題を解決へ導き、自然やそこに生息する野生動物を守りたいという思いがあり、このコースを志望しました。授業には、高尾山の気温調査、民間企業の研修所で行う測量の実習など、教室を出て行くものが多いです。2泊3日で行った「測量実習」では地形図を作成。触れたことのない高度な測定器を用い、測量の専門家から学ぶ貴重な経験をしました。私には自然保護の仕事に従事するという目標があるため、これから調査法の学びをより深め、調査するだけでなく、その結果を活用する力も高めていきたいです。専門分野と同時に幅広い分野へも意識を向け、将来は世界で活躍することも視野に入れて頑張りたいと思います。



地理環境コース2年  
(2010年10月取材)  
新井 風音



地理環境コース3年  
(2010年10月取材)  
橘 泰大



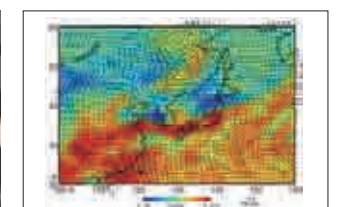
■ 地図を広げて議論する



■ 利尻島における野外調査



■ セミナー風景



■ 2008年8月5日に東京都で発生した集中豪雨の直前(午前9時)における大気下層(850hPa)の風と比湿(水蒸気量)の分布

# 都市基盤環境コース

http://www.ues.tmu.ac.jp/civil/



## 地球と自然と会話しながら安全で豊かな社会基盤を創造する

地球環境の破壊が叫ばれる今、単に建造物を建てるのではなく、自然や環境と共生するインフラの整備が必要になってきました。こうした未来を担う専門家を育てるために、「社会基盤分野」「環境システム分野」「安全防災分野」の3つのコースで総合的な視野と素養を備えた人材育成を目指します。

また、国際共同研究や東京都の土木技術支援・人材育成センターとの連携大学院協定、都庁インターンシップなどを通じて、「自然災害の軽減」「都市の基盤整備」を実感をもって学ぶことができるのも首都大学東京ならではの特色です。

### 〔社会基盤分野〕

長大・超長大橋や新素材橋梁など土木構造物の開発、社会基盤管理や、景観、都市と交通の計画、設計、制御などについて学びます。

### 〔環境システム分野〕

環境保全を目的として、上下水道システム、水質、都市流域の水循環、河川・貯水池の水理、海洋波動理論などについて学びます。

### 〔安全防災分野〕

コンクリート構造物の力学挙動、コンクリートにおける材料科学、土の力学、地下構造探査、トンネル、地下空間利用、土木構造物の耐震・免震・制震などを学びます。

ある分野を選択することができます。3年次には全員で、建設中のトンネル、ダムなどの現場見学や、都庁や建設業界などでのインターンシップもあります。

4年次では研究室に入り、教員一人に数名の学生で、一人ひとりがほぼマンツーマンに近い指導を受けながら、特別研究を行います。

高校の数学や理科が、将来、何の役に立つかわからなかった人も、ここで学んでいるうちに、その応用が社会にどのように役立っているかを実感できるでしょう。

## カリキュラムの特色

1・2年次は基本的には「構造力学」「土質力学」「水理学」など、広範な技術分野の基礎学問を全員が履修します。また、図学演習や情報処理、あるいは実験を行う科目など、実技科目も多く取り入れており、3年次には3泊4日の測量実習もあります。

3・4年次になると、専門科目の内容が多彩になり、各自が関心の

## 求められる学生像

本コースの学びの基礎となる、数学と物理（力学）に関しては、十分な基礎学力が求められます。その上で、都市、環境、自然災害などに興味があり、将来、世の中のために役立つ仕事をしたい人、自然との共生に関心がある人、都市の再生に興味がある人を求めています。

## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎セミナー、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)			
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目			
専門教育科目群	構造力学 図学および図学演習	応用力学 土質力学 土木材料学 水理学 測量学 土木計画学 都市基盤環境情報処理実習I 土質・材料演習 構造・応用力学演習 水理学演習 土木計画学演習 社会基盤計画設計論 環境保全工学 材料構造学 CAD 応用演習 (集中)	都市基盤環境工学実験I・II 都市基盤環境数値解析学基礎 都市防災工学概論 都市基盤環境情報処理実習II 測量学実習 (集中) インターンシップ (集中) 社会基盤計画デザイン実習 鉄筋コンクリート設計製図 鋼構造設計製図、上下水道工学 水循環工学、海岸海洋工学 地球環境衛生工学 水圏環境工学、環境資源循環工学 材料耐久工学、地盤工学 構造安全工学、安全防災解析学 地盤工学、安全防災管理 社会基盤構造学、社会基盤設計学 社会基盤計画、社会基盤管理 交通システム工学 社会基盤情報システム インフラネットワーク工学 建設マネジメント、土木環境法規 都市基盤環境特講第1・第2	セミナーI・II 特別研究I・II 水環境システム設計 土地質学

## 取得できる資格・免許

学士（工学）：卒業を要件として取得できます。

測量士補：登録申請書に、卒業証明書、単位履修証明書と手数料をそえ、国土地理院に申請することで、測量士補の資格を取得できます。

測量士：測量士補の資格を有する者は所定の年数の実務経験を有した場合、登録申請により資格取得できます。

技術士補受験資格：実務経験を有する者は、経験年数に関わらず、資格の受験ができます。

技術士受験資格：所定の年数の実務経験を有する者は、資格の受験ができます。

一級・二級土木施工管理技術士受験資格：所定の年数の実務経験を有する者は、資格の受験ができます。

RCCM (シビルコンサルティングマネージャ)：所定の年数の実務経験を有する者は、資格の受験ができます。

土木学会認定技術者資格：所定の年数の実務経験を有する者は、資格の特別上級、一級、二級受験資格を受験ができます。

高等学校教諭一種免許状：定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位(講義・演習・実習)の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

## 在校生インタビュー

### 現場体験型インターンシップで土木工事の現場に 触れて将来の仕事が見えてきました。

本コースを選択したのは、都市計画に興味があり、将来はその分野で社会の役に立つ仕事があったからです。今は都市教養プログラムなどの科目を通して土木分野の基礎知識を学んでいる段階ですが、製図実習はあこがれていた作業ができて楽しいです。また、1年生からインターンシップが体験できるのも首都大学東京の魅力で、私も東京都の第4建設局で6日間の研修を体験しました。道路や河川の工事現場を見学させていただいたことで、公務員の仕事内容がよく理解でき、とても貴重な体験でした。将来は本コースでの学びや体験を活かして、公務員としてみんなが住みやすい街づくりに貢献したいと思っています。



都市基盤環境コース1年  
(2010年10月取材)

古川 歩

### 土木分野の対象は身近なものばかり。 現場での体験が学びに結びつきます。

土木分野で学ぶ対象は橋やダム、道路など私たちの身近にあるものばかり。大学で学んだ後に実際の現場に触れると、どういう目的でそのような構造になっているのかなどがよく分かるところが興味深いですね。私の場合、計画交通研究室に所属し、卒業研究では道路などの建造物にデザインを施すことで運転者の心理的ストレスを軽減する「シークエンス・デザイン」に関する研究に取り組んでいて、研究の過程で現場のエンジニアの方々に話を伺う機会が多く、それが大学での学びにも結びついています。卒業後は大学院に進学して研究を続ける予定ですが、プレゼンテーション力をもっと伸ばさないといけないと実感しています。



都市基盤環境コース4年  
(2010年10月取材)

斎藤 嵩史



■ ドライビングシミュレータ



■ 現場見学会 (宮ヶ瀬ダム)

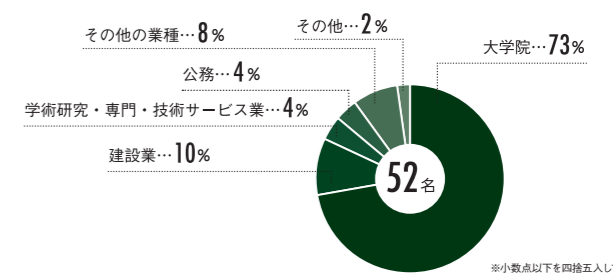


■ 測量学実習



■ 社会基盤計画デザイン実習

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

〔就職先〕 アルファテック・ソリューションズ、一条工務店、FJネクスト、鹿島建設、大林組、平成建設、JAL ウェブ、中日本高速道路、JR西日本、東亜建設工業、福田道路、建設技術研究所、セントラルコンサルタント、オルガノ、三菱地所ビルマネジメント、野村不動産アーバンネット、フージャースコーポレーション、ミサワホームインテグレーション、タクトホーム、新日本空調、菱和エンジニアリング、京王電鉄、国土交通省、東京都庁、千代田区役所、横浜市役所 など

〔進学先〕 首都大学東京大学院、東京大学大学院 など

# 建築都市コース

http://www.ues.tmu.ac.jp/aus/



## 建築学をしっかりと学べて、さらに都市的な視点も学ぶことのできる贅沢なコース

首都大学東京の建築都市コースは、他大学の建築学科にはない特色があります。単体の建築だけでなく、都市空間を含めた都市環境全体について考えるコースであるということです。

一般の建築学はもちろん、都市に関する理論や技術も総合的に学び、さらにそれを活用する人間との関わりも総合的に理解し研究する、かなり贅沢なコースです。

また、首都大学東京の建築都市コースは、今建っている既存の建築ストックを活かした都市づくりに積極的に、建築ストックを活かすための総合的な技術開発を通じ、国際的にも高い評価を得ています。これからの建築都市コースの授業や研究にもその最新の成果が活かされていくでしょう。

### カリキュラムの特色

建築の集合体であると同時に、数多くの人々が生活し、あるいは経済活動に従事している都市空間には、さまざまな顔があり多くの今日的な課題を抱えています。そのため、建築と都市空間を学問対象とする本コースでは、建築都市に関わる幅広い知識を体系的に修得できるよう、建築計画、建築歴史・意匠、建築構造、建築環境・設備、建築生産、都市空間・計画、都市生活・経済、都市社会・制度などに関連した科目があり、1年次では概説科目、2年次に入門科目、3・4年

次で発展・応用科目を受講することができます。

また、科目には講義科目と演習・実験科目があり、特に、演習・実験科目では、大学としてはトップクラスの充実度を誇る学内施設を使っている実験や、東京というロケーションの優位性を最大限に活かした、新しい都市空間を構成する超高層ビルなど最新の建築見学や伝統的な木造住宅市街地の街歩きなど、首都大学東京ならではの特色あるカリキュラムが用意されています。

### 求められる学生像

建築都市コースが相手にするのは、都市環境を構成する建築であり、都市空間です。そこで求められる資質とは、その学問の重要性に裏づけられた社会的責任感であり、社会を引っ張る使命感、ものづくりに携わる多様な職能の人たちとの協調性、そして、外国人とのやりとり

も苦にならずにこなせるコミュニケーション能力です。

本コースでは、そうした資質や意欲をもち、さまざまな要素が絡み合う都市空間を学ぶことに知的な面白さを感じることで、そんな意欲あふれる皆さんとの出会いを求めています。

### 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)			
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目			
専門教育科目群	選択必修科目	居住計画、建築計画I、都市計画 日本建築史、西洋建築史 建築環境学 A・B 建築環境システム A 建築構造力学I・II 建築構法I、建築材料学I	建築構造力学III 建築都市先端研究ゼミナール 建築生産	特別研究ゼミナール 特別研究
	講義科目群		建築デザインI、建築環境演習I・II 建築材料実験 建築構造実験、構造設計演習	
	演習・実験科目群	建築設計製図I・II		
推奨科目	建築表現演習I・II 建築学概論・演習 建築物のしくみ 都市社会システム概論 都市空間システム概論	都市防災計画 都市交通計画 建築見学実習 まちづくり計画論 地域健康計画論 都市社会論	建築計画II、建築デザインII 都市・建築空間解析、都市設計 東洋建築史、建築デザイン論 建築環境学C、建築環境システムB 建築環境システム設計、木質構造 建築鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造 建築材料学II、建築振動学 建築法規、建築構法II 建築施工管理、都市行政論 都市情報解析法、都市環境経済論	建築デザインIII 建築構造力学IV

### 取得できる資格・免許

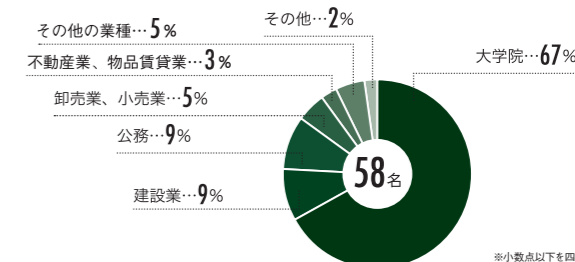
学士（工学）：卒業を要件として取得できます。

高等学校教諭一種免許状（工業）：定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位（講義・演習・実習）の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

一級建築士受験資格：国土交通省が定める指定科目を履修し、一定の実務経験を経て、得られることとなります。

一級建築施工管 理 技 士 受 験 資 格：卒業後、実務経験3年で、得られることとなります。

### 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



#### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

[就職先] 竹中工務店、アイレックスインフォテック、旭化成ホームズ、積水ハウス、東急ホームズ、東京都住宅供給公社、住友不動産リフォーム、伊藤忠テクノソリューションズ、I N A X、岡村製作所、清水建設、鹿島建設、真和エンタープライズ、TOTOバスクリエイト、東京ガスリモデリング、日本テレビアート、ペリクラークペリアーキテクトゥジャパン、森トラスト、ヤシマ工業、国際航空、チームネット、ピーワークス、武蔵野市役所、横浜市役所、さいたま市役所 など

[進学先] 首都大学東京大学院、東京大学大学院、横浜国立大学大学院 など

### 在校生インタビュー

将来の目標に向けて自分自身の“引き出し”を増やしている最中です。

モノづくりが好きで将来は建築家かプロダクトデザイナーになりたいので、本コースの専門科目をどれも興味深く学んでいます。「建築学概論」では自分の目指す世界が具体的にイメージできるようになりましたし、「建築表現演習I」は設計図面を描くための良いトレーニングになります。また、本コースは建築と都市計画の両方を学べることも大きな特色です。私の場合は今のところ建築に興味があり、現在は建築の手法や材料の組み合わせ、加工の仕方などを学ぶことで、自分自身の“引き出し”を増やしている過程だと思っています。その学びを活かして、将来は一軒家から高層ビルまでさまざまな建物の設計にチャレンジしたいです。



建築都市コース1年  
(2010年10月取材)  
佐藤 宏一



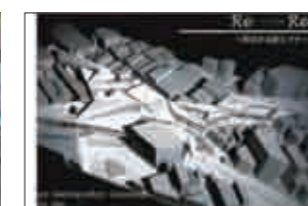
建築都市コース4年  
(2010年10月取材)  
石木 健士朗



■ 学生によるオフィスの設計と施工



■ 建築構造実験で鉄筋コンクリートはりをつくる



■ 建築設計作品



■ 版築を自力建設でつくる

# 分子応用化学コース

http://www.ues.tmu.ac.jp/apchem/



## 身近な環境問題をあらゆる角度から考える、環境を意識した応用化学分野のプロを育成

人類の利便性だけを追求していくと私たちは必ず、大きな「つけ」を払われることになります。そこで、常に「環境」という言葉を意識しながら研究を行うことが望まれます。本コースが目指しているのは、「環境と豊かに調和した化学の研究」です。環境にやさしいという言葉がありますが、ある一面だけで評価するところかも知れませんが、別の面から見ると環境に負荷をかけている場合もあるのです。

本コースでは、応用化学の分野で環境を意識した諸問題を皆さんと一緒に

に考えていながら、問題解決に必要な基礎的な化学の知識を修得する教育を行っています。また、自主性を尊重することで、問題の解決能力に加えて問題の発見能力を養うことも目標としています。4年次で学会発表や国際学会での口頭発表を経験している学生もいます。大学院への進学を奨励しており、最短3年間で博士前期・後期課程を履修できるという新たな制度を作り、最短6年間(学部の最短3年間と合わせて)応用化学分野におけるプロを育成する独自のプログラムを用意しています。

## カリキュラムの特色

本コースでは、ライフサイエンス、環境、材料、エネルギーなど、地球環境に調和した物質・材料を創造し、活用するために役立つ知識を、基礎から専門領域へと系統的に学べるようカリキュラムが用意されています。1・2年次では、専門学力と学識を修得します。3年次では、

より高度な専門プログラムと化学実験の手法やレポート作成法を学ぶ実験プログラムが行われます。4年次になると研究室に配属され、世界最先端の研究を通して卒業論文をまとめます。

## 求められる学生像

研究は自分との戦いです。何故なら、研究を進めていくためには、自分自身で物事を考え、目標に向かって自分を奮い立たせ、常にやる気を喚起していかなければならないからです。また、第一線に立つ研究者として、自分の研究に関わる領域でトップになることが重要です。トップの位置からはその研究領域の全体が見渡せるので、次にどの方

向へどんな風に進めば良いかがわかります。そして、広い視野をもつことです。そうした点を踏まえ、本コースでは、21世紀を化学で切り拓いていくことに興味と情熱をもち、好奇心とバイタリティを兼ね備えた学生を求めています。

## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)			
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目			
基礎専門科目群 (必修)	分子応用化学基礎ゼミナール 物質量子化学 応用化学数学	材料物理化学第1・2 分子応用化学基礎実験 環境化学 有機化学第1・2 エネルギー環境化学 機器分析化学第1 生物化学第1・2 環境分析化学第1 無機環境物質化学 応用化学英語1 化学システム工学	分子応用化学実験第1・2 材料物理化学第3 物質構造化学 物理有機化学第1 反応物理化学第1・2	分子応用化学特別研究 分子応用化学ゼミナール
選択必修科目			環境無機マテリアル化学 <sup>*1</sup> 電子材料化学 <sup>*1</sup> 材料プロセス工学 <sup>*1</sup> 環境物質循環化学 <sup>*1</sup> バイオマテリアル化学 <sup>*1</sup> 生体材料工学 <sup>*1</sup> 、物理有機化学第2 <sup>*1</sup> 環境物質循環化学 <sup>*1</sup> 機器分析化学第2 <sup>*1</sup> 、環境物質化学 <sup>*1</sup> 応用化学英語2 <sup>*1</sup> 、応用化学英語3 <sup>*1</sup> ナノマテリアル化学 <sup>*1</sup> 環境計測化学 <sup>*1</sup> 計算機化学 <sup>*1</sup> 有機マテリアル化学 <sup>*1</sup>	
コース専門科目群 A				
コース専門科目群 B		安全化学 <sup>*2</sup>	学外実習	グリーンケミストリー <sup>*2</sup> 化学技術経済論 <sup>*2</sup> インターンシップ <sup>*2</sup>

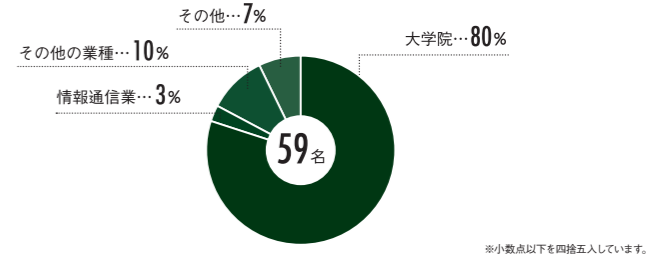
\*1から12科目選択 \*2から1科目選択

## 取得できる資格・免許

学士(工学)：卒業を要件として取得できます。

高等学校教諭一種免許状(工業)：定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位(講義・演習・実習)の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

## 卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



### 2009年3月、2010年3月卒業生実績

[就職先] 能美防災、三洋電機、大日本印刷、大陽日酸、電通テック、日立ハイテクノロジーズ、日本経済社、大和証券、朝日ネット、八王子市役所 など

[進学先] 首都大学東京大学院、京都大学大学院、農業者大学校 など

## 在校生インタビュー

学問を境界なく学ぶことで広がる可能性。新たな視点から癌化研究に取り組みます。

生物や化学、環境に関心があったため、研究室も多く選択肢が広いこのコースへの進学を決めました。今は生物化学の分野に興味がどんどん膨らんでいます。きっかけは1年次に受講した「先端生物化学入門」の授業。細胞の癌化をストレスや生活習慣の影響などマクロ的に追うのではなく、どのような化学物質によって癌化するかといった新しい化学的視点からアプローチ。生物も化学も好きな私には、とても魅力的な研究です。境界分野はいま注目を集めている研究でもあります。これからは分野に捉われず多くのことを吸収して、将来は化学的視点から癌研究の道を切り拓いていきたいです。そして原因を解明し、多くの人を救いたいと思います。



分子応用化学コース2年  
(2010年10月取材)  
中野 沙緒里

未来の社会や私たちの生活に関わる最先端分野にチャレンジできます。

材料化学は身の回りにあるすべての物に関わりがあるため、広範囲にわたる知識を学ばなければなりません。その分、学習や研究の成果が未来の社会や私たちの生活を変えるかもしれないという可能性を秘めているところにやりがいや面白さがあります。私も高分子を用いたバイオ・環境などの研究に取り組む川上研究室に所属し、バイオ関連のテーマで卒業研究を進めていて、卒業後も大学院に進学してこの研究を継続する予定です。本コースの魅力は環境系からバイオ系まで幅広い分野の研究室があること。そして、充実した施設・設備環境のもとで、最先端の研究に取り組む先生方から直接、指導を受けられることも大きなメリットです。



材料化学コース(現・分子応用化学コース)4年  
(2010年10月取材)  
松田 宏紹



■ 学生実験



■ セミナール



■ 野外での大気サンプリング



■ 核磁気共鳴分光装置 (NMR)

# 自然・文化ツーリズムコース

※3年次進級時に選択

http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/index.html



## 自然と文化の調和を図る観光

本コースは、観光の現場で最も不足している観光計画の企画立案や地域全体の価値を高めるための総合的なマネジメントを行うことができる観光のリーダー、レンジャー等の自然環境の保護・適正利用を担う先導的・実践的人材を育成します。従来の観光学に、地理学・生態学などの理学的な方法や都市計画・歴史的遺産の保存や活用などの都市工学の方法、また、観光地のデータベース作成や情報発信などの情

報学的手法を導入した、全く新しい「観光科学」を学ぶコースです。本コースは、文化遺産や素晴らしい都市の景観を対象に工学的アプローチにより教育研究を進める「文化ツーリズム領域」と、さまざまな自然を対象に理学的アプローチにより研究を進める「自然ツーリズム領域」を二本の柱とし、その間を「観光情報・制作領域」がつなぐという構成になっています。

## カリキュラムの特色

観光学の基礎を学ぶ「観光計画」、都市工学的視点から魅力ある都市・地域づくりを学ぶ「観光まちづくり」、GIS、地図解析など地理的な情報分析と観光情報学を結ぶ「観光情報」、地理学的視点から、エコツーリズムやルーラルツーリズムなど環境資源の保全保護や適正利用を学ぶ「地域環境」、環境と人間を含むすべての生態系の関わりを学ぶ「環境生態」という5つの主要な分野から総合的に履修します。

インターンシップやプロジェクトベースト・ラーニング(PBL)型の演習を導入し、具体的な課題を徹底的に実習することで、課題発見・解決方法の修得を図ります。また、東京都が創設した自然環境分野で幅広い知識と専門性を備え、アクティブに行動できる人材を育成する「ECO-TOPプログラム」の修了に必要な科目を履修することができます。

## 求められる学生像

本コースは、3年次進級時点で都市環境学部の他のコースから選択します。そのため、学部の1・2年次に所属するコースで基礎的な専門知識を幅広く履修していることが求められます。また、具体的に「観光」・「まちづくり」・「地域」・「自然」・「環境」・「人間と自然との関わり」・「エコツーリズム」・「ルーラルツーリズム」などに興味をもつことはもちろんですが、それらに関連して幅広い知識をもつことも、求められ

る学生像のひとつです。いわば、本コースではスペシャリストよりもジェネラリストが求められています。さらに、幅広い興味や知識に基づいて、課題の発見や解決を積極的に行える主体性と行動力も求められます。そして最後に、フィールドワークが好きなことも、求められる学生像のひとつです。それは、まちづくりや自然環境の適正利用を現地で調査したり議論したりすることが少なくないからです。

## 履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎セミナー、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照)			
共通基礎教養科目群	共通教養科目、理工系共通基礎科目			
専門教育科目群	必修科目	自然ツーリズム概論I 観光計画学I 観光情報学 観光まちづくり論I	自然ツーリズム概論II 観光地理情報学 観光まちづくり論II	
	選択必修科目	地理学概説I・II	観光論I・II、景観論 観光政策学 観光地理情報学実習 観光まちづくり論実習、観光分析論実習 地域環境学I (II)、地域環境学演習I (II) 地域環境学野外実習 環境生態学I (II)、環境生態学演習I (II) 自然ツーリズム学実験 環境生態学野外実習 観光地理学 (観光地誌学) 観光計画学II 自然環境地理学 (生態地理学) 保全生物学 (森林生物学) 自然環境と法制度、自然環境と経済 自然環境と倫理、コミュニケーション学 インターンシップ	観光資源論
	自由科目		観光まちづくりプロジェクト演習 自然ツーリズム学プロジェクト演習 観光政策・情報プロジェクト演習	安全管理・野外救急救命法 自然・文化ツーリズム基礎課題研究
ゼミナール・特別研究			安全管理・野外救急救命法 自然・文化ツーリズム基礎課題研究	自然環境管理学 自然・文化ツーリズム課題研究 自然・文化ツーリズム学セミナーI・II 自然・文化ツーリズム特別研究I・II

## 取得できる資格・免許

学士 (観光科学) : 卒業を要件として取得できます。

中学校教諭一種免許状 : それぞれの免許に定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位 (講義・演習・実習) の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

高等学校教諭一種免許状 : それぞれの免許に定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位 (講義・演習・実習) の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

学芸員 : 定められた科目の単位の修得ならびに、卒業を要件として、学芸員資格が取得できます。

ECO-TOPプログラム : 自然の保護と適正利用の担い手を育成するために、東京都が独自に定め、認証する「ECO-TOPプログラム」の修了に必要な科目を修得することができます。

地域調査士 : 定められた科目の単位の修得、地域調査士講習会の受講ならびに卒業を要件として、地域調査士の資格が認定されます。

GIS学術士 : 定められた科目の単位の優秀な成績で修得し、GISを利用した卒業論文を執筆することで取得できます。(日本地理学会に資格実績証明団体として申請中)

## 卒業後の目指せる進路

自然・文化ツーリズムコースは2008年4月に開設されたコースのため、まだ卒業生を送り出していません。卒業後は、下記のような進路を目指すことができます。

予想される卒業生の進路  
[就職先] 観光、流通、商社、コンサルティングなどの一般企業、独立行政法人職員、公務員 など  
[進学先] 首都大学東京大学院 など

## 在校生インタビュー

自分とは違う視点や考え方に触れてまちづくりの方向性が見えてきます。

2年次までは都市基盤環境コースで学んでいましたが、構造物自体よりもそれを取り巻く人の流れや景観、観光によるまちづくりに興味を持つようになり、本コースを選択しました。「観光まちづくり論実習」では長野県の善光寺、須坂、小布施という観光地を訪問し、それぞれのまちづくりを調査・比較することで、まちづくりにも手法やプロセスの違いがあることを知りました。本コースの魅力はさまざまなコースから学生が集まっていること。自分とは違った視点や考え方に刺激を受け、自分の意見や考えがまとまることもあります。私自身、前コースで土木分野の知識を学んだことは、まちづくりを学んでいく上で大いに役立っています。

調査や分析から導き出した内容を社会の活性化に役立てていきたいです。

歴史、政治、経済、化学など、自分も幅広い知識や興味を活かすことができるのではないかと考え、このコースに進学しました。授業の中でも特に新鮮で面白いのは「プロジェクト演習」。先生やコースの仲間とともに、小笠原の父島や多摩動物公園など、学校から外に出て調査を行います。多摩動物公園では自分たちで作成したアンケートをお客様に実施するとともに、GPSを持っていただき行動を調査しました。これらのデータを元にこれから分析を行います。その結果を提出して動物園の活性化に活かしてもらうのが最終目的です。将来は、この様に地域や施設の発展に役立つ、有意義な提案をするような仕事に就きたいと考えています。



自然・文化ツーリズムコース3年  
(2010年10月取材)  
後藤 美咲



自然・文化ツーリズムコース3年  
(2010年10月取材)  
岡野 雄気



■ 小笠原で実施した自然ツーリズムPBL



■ 観光まちづくりPBLにおける議論



■ 多摩動物公園で実施した観光政策・情報PBL



■ アフリカでのエコツアー調査

# 都市環境学部 教員一覧 教員の専門分野・研究分野の紹介

## 地理環境コース →p.080

杉浦 芳夫 教授  
空間分析論、空間行動論、地理人文学  
鈴木 毅彦 教授  
火山灰層序、火山噴火史、中期更新世編年学  
高橋 日出男 教授  
都市気候学、気候変動、降水現象に関する気候学  
松本 淳 教授  
モンスーン気候学、環境気候学  
山崎 晴雄 教授  
第四紀地殻変動、地震地質学  
若林 芳樹 教授  
都市地理学、行動地理学、地理情報科学  
渡邊 真紀子 教授  
土壌学、環境動態解析、環境と生態  
白井 正明 准教授  
地積学、第四紀地質学、海洋地質学  
滝波 章弘 准教授  
文化地理学、観光研究、フランス語圏研究  
松山 洋 准教授  
水文気象学、陸面-大気相互作用、統計解析、プログラミング  
泉 岳樹 助教  
都市気候学、地理情報システム、数値気象モデル  
高橋 洋 助教  
アジアモンスーン、雲降水気候学、領域気候モデリング  
坪本 裕之 助教  
都市地理学、オフィス立地論  
中山 大地 助教  
数値地形学、地理情報システム、リモートセンシング  
原山 道子 助教  
計量書誌学、地理文献学

## 都市基盤環境コース →p.082

稲貝 とよの 教授  
水処理工学、環境解析学、資源リサイクルシステム  
宇治 公隆 教授  
コンクリート材料学、コンクリート構造学、耐久性、補修・補強  
梅山 元彦 教授  
海岸工学、港湾工学、海洋工学  
河村 明 教授  
水文学、水資源工学、河川工学  
小泉 明 教授  
水環境工学、上下水道工学、廃棄物計画のシステムズアナリシス  
長嶋 文雄 教授  
構造力学、橋梁などの耐震設計、衝撃問題、環境振動問題  
西村 和夫 教授  
都市及び山岳部の地下空間構造物と地盤の静的・動的相互作用  
野上 邦栄 教授  
構造工学、橋梁工学、鋼・合成構造学  
前田 研一 教授  
橋梁工学、構造工学、橋梁史、鋼構造学、複合構造学  
荒井 康裕 准教授  
環境工学（都市廃棄物計画、資源循環・リサイクル）  
上野 敦 准教授  
コンクリート工学、コンクリート材料科学、環境に貢献するコンクリート  
小田 義也 准教授  
物理探査、地震工学、地震観測、都市防災  
小根山 裕之 准教授  
交通計画、交通工学、交通環境負荷解析  
横山 勝英 准教授  
環境水理学、河川・貯水池の土砂動態、物質循環  
吉嶺 充俊 准教授  
土質力学、特に地盤の液状化  
天口 英雄 助教  
水工水理学、水文学  
大野 健太郎 助教  
コンクリート材料学、コンクリート構造物の維持管理  
鹿田 成則 助教  
交通工学、国土計画  
新谷 哲也 助教  
水工水理学  
土門 剛 助教  
トンネル力学、地下空間工学、地盤工学、岩盤力学  
中村 一史 助教  
構造工学、地震工学、維持管理工学  
山崎 公子 助教  
水環境工学（水源水質保全、上下水道、浄水汚泥）

## 建築都市コース →p.084

市川 憲良 教授  
建築環境システム、建築水環境、建築設備計画  
上野 淳 教授  
建築計画学、環境心理学、環境行動学  
北山 和宏 教授  
鉄筋コンクリート構造、耐震設計論  
橋高 義典 教授  
建築材料学、緑化材料、内装材料、高性能コンクリート  
小泉 雅生 教授  
建築設計、建築意匠  
小林 克弘 教授  
建築設計、建築意匠、西洋建築史  
須永 修通 教授  
建築環境学、環境共生住宅・建築、温熱快適性  
竹宮 健司 教授  
建築計画学、環境行動学  
玉川 英則 教授  
都市解析、都市計画  
角田 誠 教授  
建築生産、ストックマネジメント、リユースシステム  
深尾 精一 教授  
建築計画学、建築構法計画、構法設計  
星 旦二 教授  
健康科学、公衆衛生、予防医学  
山田 幸正 教授  
建築史（日本建築史・東洋建築史）  
吉川 徹 教授  
都市・建築空間解析、都市計画、都市解析  
芳村 學 教授  
建築構造、鉄筋コンクリート構造の耐震技術  
饗庭 伸 准教授  
都市計画、市民参加、NPO・NGO  
伊藤 史子 准教授  
住環境学、都市評価論  
高木 次郎 准教授  
構造設計、鋼構造、構造システム開発  
島海 基樹 准教授  
都市設計、都市計画、都市景観  
永田 明寛 准教授  
建築環境学、建築の熱湿環境と熱負荷  
山本 薫子 准教授  
都市社会学、エスニシティ、都市調査  
市古 太郎 助教  
都市計画学、空間情報科学、都市防災論  
一ノ瀬 雅之 助教  
建築環境・設備  
猪熊 純 助教  
建築設計  
門脇 耕三 助教  
建築講法、構法計画  
木下 央 助教  
工学、建築学、建築史、意匠  
黒川 直樹 助教  
建築史、意匠  
中村 孝也 助教  
建築構造・材料  
松沢 晃一 助教  
建築材料、コンクリート工学  
松本 真澄 助教  
住居学、建築経済  
見波 進 助教  
建築構造学、鋼構造  
山村 一繁 助教  
建築構造・材料

## 分子応用化学コース →p.086

内山 一美 教授  
分析化学、マイクロ化学分析、クロマトグラフィー  
梶井 克純 教授  
大気環境化学、光化学、分子分光学、オキシダント  
加藤 覚 教授  
輸送現象、抽出、吸着、計算機利用、相平衡  
金村 聖志 教授  
電池、燃料電池、電気化学、セラミックス材料化学、生体関連セラミックス  
川上 浩良 教授  
高分子化学、生体分子工学、機能性分離材料、生物無機化学  
久保 山治 教授  
有機合成化学、超分子化学、機能性色素  
春田 正毅 教授  
触媒化学、コロイド・界面化学  
益田 秀樹 教授  
電気化学、電気化学プロセスに基づく微細加工とその応用  
山口 素夫 教授  
有機合成化学、錯体化学、超分子化学  
吉田 博久 教授  
高分子固体物性、多成分系分子集合体の構造制御  
朝山 章一郎 准教授  
バイオマテリアル化学、医用高分子、生化学、生体分子工学  
梶原 浩一 准教授  
無機材料化学、光・電子機能セラミック・ガラス、深紫外光化学材料  
加藤 俊吾 准教授  
環境化学、大気化学、東アジア大気環境、海洋と大気の相互作用  
佐藤 潔 准教授  
複素環合成、分子認識化学、構造有機化学  
高木 慎介 准教授  
光化学、ナノ構造化学、機能性色素材料、ナノ層状化合物の化学  
武井 孝 准教授  
表面化学、セラミックス化学、環境材料  
中嶋 秀 准教授  
マイクロ化学分析、クロマトグラフィー、化学・バイオセンサ  
西尾 和之 准教授  
無機材料、デバイス  
山登 正文 准教授  
材料化学、構造・機能材料  
嶋田 哲也 助教  
物理化学  
田中 学 助教  
高分子化学、機能性高分子  
中嶋 吉弘 助教  
レーザー誘起蛍光法を用いた大気微量成分観測  
西敷 隆平 助教  
超分子化学、分子認識化学、ナノ材料化学  
乗富 秀富 助教  
バイオプロセス工学、生体解媒化学、ナノ材料  
増井 大 助教  
有機金属化学、有機合成化学、無機化学  
棟方 裕一 助教  
電気化学、燃料電池、リチウム電池、構造セラミックス材料  
柳下 崇 助教  
材料化学

## 自然・文化ツーリズムコース →p.088

東 秀紀 教授  
観光からみたまちづくり論、都市・建築文化論  
菊地 俊夫 教授  
人文地理学、自然ツーリズム学  
小崎 隆 教授  
エコツーリズム、自然と人間の共生、環境教育、土壌圏生態学  
清水 哲夫 教授  
観光計画学、交通工学  
本保 芳明 教授  
観光政策学  
川原 晋 准教授  
観光デザイン論、中心市街地再生論、まちづくり市民事業  
倉田 陽平 准教授  
地理情報科学、空間情報処理、観光情報システム  
沼田 真也 准教授  
生態学、熱帯生物学、自然ツーリズム  
有馬 貴之 助教  
観光地理学、観光行動論  
岡村 祐 助教  
都市デザイン・歴史的環境保全・まちづくり  
矢部 直人 助教  
都市地理学、観光解析、地理情報科学  
吉田 樹 助教  
都市・地域における公共交通政策、観光計画

# システムデザイン学部

Faculty of System Design

システムデザイン学科  
<http://www.sd.tmu.ac.jp/>

- 094 ヒューマンメカトロニクスシステムコース
- 096 情報通信システムコース
- 098 航空宇宙システム工学コース
- 100 経営システムデザインコース
- 102 インダストリアルアートコース